

# RETAILER ACADEMY NEWS

Sep 2019 | Bentley Motors Japan



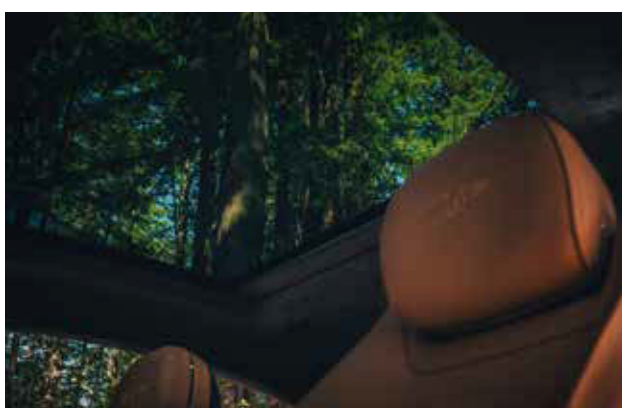
## コンチネンタル シリーズ 20.5MYの特徴



ベントレー モーターズはこのほど、コンチネンタル シリーズの20.5MYを発表しました。固定式ガラスルーフやハイグロスカーボンファイバーパネルといった新しい装備について解説します。また、20.5MYではクーペおよびコンバーチブルでV8モデルがラインアップに加わりました。

### 固定式ガラスルーフ

コンチネンタル GT W12 では、固定式ガラスルーフを有償オプションとして設定しました。このガラスパネルは、クーペのルーフに固定されているもので、開いたリスライドしたりしません。ギラギラした光を防ぐ偏光ガラスが採用されており、車外の状況をより鮮明に見ることができます。



ドライバーや乗員にとって明かりが不要であれば、コンソールにあるスイッチで操作可能な電動ブラインドを閉じることができます。ブラインドはアルカンターラ製で、ヘッドライナーのカラーとして設定されている全15色と合わせることができます。また、マリナードライビングスベックと固定式ガラスルーフを同時に装着する場合、ヘッドライニングが多孔ハイドではなく、なめらかなものとなることをご注意ください。



### ハイグロスカーボンファイバーパネル

W12およびV8の全車で選択可能になったのが、ハイグロスカーボンファイバーのパネルです。ウッドパネルの代わりに、フェイスパネルとドア ウェストレールに用いられることになり、インテリアをよりスポーティに強調してくれます。なお、センターコンソールはピアノブラックのウッドパネルとなります。

しかし、このパネルを選択すると、クロームのピストライプもコート・ド・ジュネーブも選択することができない点にご注意ください。



### V8モデル追加

クーペおよびコンバーチブルにV8モデルが加わりました。W12モデルより標準で選択できるボディカラーやレザーカラーが少ないことや、アクティブアンチロールバー搭載のベントレーダイナミックライドが有償オプションであることなど、さまざまな相違点があります。詳細はリテラー アカデミーニュース 8月号 (No.94) および今月号のP4を参照してください。







# ドイツメーカーの新型車が多数発表 フランクフルト・モーターショー 2019

去る9月12日から22日にかけて、第68回フランクフルト・モーターショーが開催されました。東京モーターショーと同様に隔年で開催されるこのモーターショーは、地元ドイツのメーカーの新型車が多数発表され、広い会場を贅沢に使った展示で知られています。しかし、今回はドイツを除く自動車メーカーの多くが参加を見送ったこともあり、寂しさを感じさせる部分もありました。とはいえ、ドイツ車の勢いは例年と変わらず、さまざまな新型車が発表されています。

## Porsche Taycan

ボルシェ タイカン



今回のショーの目玉となったのが、ボルシェ初のフルEVモデルとなるタイカン。導入されるモデルは、最高出力680psのタイカンターボと、最大で761psを発生させるタイカンターボSで、出力の少ない4輪駆動モデルも今年中に加わる予定です。また、さらにクロスオーバーモデルの「タイカン クロスツーリスモ」も2020年中に発表されます。パワートレインは、前後アクスルに搭載された2基の電気モーターによる4輪駆動で、リアアクスルには2速のトランスミッションを装備。加速性能と効率性の両立を図っています。

### ■ ボルシェ タイカンの○と×

- 4ドアスポーツサルーンの実用性に加え、ターボSで0-100km/h加速2.8秒、最高速度260km/hを発揮する実力の高さ。航続距離はターボで450kmに達する
- ✗ 800Vシステムの採用による充電時間の大幅短縮が売りだが、日本では対応する急速充電器が普及していないため、インフラが整備されないとメリットが薄い

## Porsche Cayenne Turbo S E-Hybrid Coupé

ボルシェ カイエン ターボSEハイブリッド クーペ



SUVのカイエンおよびカイエン クーペに加わったプラグインハイブリッドモデルが、同車の新たなトップエンドモデルとなりました。550psを発揮する4.0L V8エンジンと8速ティプトロニックSトランスミッションの間に136psの電気モーターを配置することで、システム合計出力680ps、最大トルク900Nmを発揮。0-100km/h加速3.8秒、最高速度295km/hという圧倒的な動力性能に加え、電気モーターのみで最大40kmの走行が可能。最高速度も135km/hに達します。日本でも受注が開始されました。

### ■ ボルシェ カイエン ターボSEハイブリッド クーペの○と×

- ロール抑制システム、エアサスペンション、セラミックブレーキ、スポーツクロノパッケージなどが標準装備され、装備類が充実している
- ✗ 価格は、カイエンターボSEハイブリッドが2327万円で、同クーペが2376万円。フル装備という理由はあるが、カイエンターボに比べて400万円以上高い

## Mercedes-Benz GLE Coupé

メルセデス・ベンツ GLE クーペ



今回メルセデスが発表した新型車のひとつがGLE クーペ。2018年9月のパリ・モーターショーで新型GLEが発表されているため、ちょうど1年後のクーペ追加となりました。基本的に新型GLEの特徴を引き継いでいて、スポーティなクーペスタイリング、そして3列シートが設定されないことなどが主な違いです。ボディサイズは全体的に大型化。ベンティガとの比較では、全長で211mm短く、全幅は15mm広いというサイズ感となります。当初からAMGモデルが用意され、高性能モデルを望むニーズに応えています。

### ■ メルセデス・ベンツ GLE クーペの○と×

- ボディサイズの拡大により、インテリアの余裕が大幅に向上。電気モーターとの組み合わせとなるAMGの6気筒エンジンでは、最高出力435psを発揮
- ✗ 先代モデルに比べて全長は39mm、全幅は7mm拡大され、全幅は2mを超えている。居住性は確かに向上したものの、狭い道での取り回しなどに気を遣う

## Mercedes-Benz VISION EQS

メルセデス・ベンツ ビジョン EQS



メルセデスの「EQ」ブランド初のセダンモデルとして発表されたスタディモデル。現時点では市販モデルではないものの、メルセデスの次世代フラッグシップモデルの姿を予見させる注目すべきモデルといえます。パワートレインは、前後に電気モーターを装備する4輪駆動で、最高出力476ps、最大トルク760Nmを発揮。0-100km/h加速4.5秒、最高速度200km/hというスポーツカー並みのスペックを備えます。リチウムイオンバッテリーを搭載し、航続距離は約700km。実用面でも遜色ない内容となっています。

### ■ メルセデス・ベンツ ビジョン EQSの○と×

- 将来のフラッグシップモデルの姿を予見させるEQSは、ショーカー的なディテールを除けば十分現実的で、スタイリッシュにまとめられている
- ✗ 4ドアクーペのスタイリングは、将来のSクラスというよりはむしろCLSの後継といえる。居住性を重視した別の大型セダンの登場も予想される

## BMW X6

BMW X6



BMWは、同社のSUVクーペモデル、X6の新型を発表しました。SUVクーペというニッチなカテゴリーを創出したX6も今回で3世代目。ボディサイズは先代モデルから大型化され、全長は26mm長い4935mm、全幅は15mm広い2004mm、全高は6mm低い1696mmとなり、ホイールベースは42mm長い2975mmとなりました。ベンティガとの比較では、全長は215mm短く、全幅は9mm広く、全高は59mm低く、ホイールベースは20mm短いというサイズ感。ショーでは反射率1%の特殊なマットブラックで塗装されたワンオフモデルが展示されました。

### ■ BMW X6の○と×

- より洗練されたクーペスタイリング。オプションでイルミネーション機能付きキドニーグリルを設定するなど、SUVらしい遊び心のある装備が魅力的
- ✗ ボルシェやアウディからもSUVクーペが登場したこともあり、やや新鮮さに欠ける。また、全高が低くなったことで後席のヘッドクリアランスが気になる

## BMW 8 Series Gran Coupé

BMW 8シリーズ グランクーペ



BMWは、スポーツクーペのトップモデルとなる8シリーズに、新たに4ドアボディを採用したBMW 8シリーズ グランクーペを展示しました。スタイリッシュなデザインで人気のあった旧6シリーズ グランクーペの後継モデルで、ディメンションは全長5082mm、全幅1932mm、全高1407mmとなり、ホイールベースは3023mm。6シリーズ グランクーペとは一線を画するファストバック風のスタイリングが特徴です。エンジンは3.0L 6気筒のガソリンおよびディーゼルと、4.4L V8ガソリンの3種類が用意されています。

### ■ BMW 8シリーズ グランクーペの○と×

- 8シリーズの2ドアクーペおよびカブリオレより実用性があり、同社7シリーズの巨大なキドニーグリルのデザインに抵抗がある顧客層の受け皿になる可能性がある
- ✗ リアドアのガラスエリアが広がったことと、ファストバック風のデザインで、4ドアクーペらしさが希薄になった。6シリーズ グランクーペのユーザーが他に流れる可能性がある



## COMPETITOR INFORMATION

### Audi RS 7 Sportback/Audi RS 6 Avant

アウディ RS 7 スポーツバック/アウディ RS 6 アバント



アウディは、A7スポーツバックとA6 アバントのそれぞれに、Audi Sportの手によるハイパフォーマンスモデル、RS 7 スポーツバックとRS 6 アバントを追加しました。4.0L TFSI V8ツインターボエンジンは、新たに48Vのマイルドハイブリッドシステムを搭載。最高出力600ps、最大トルク800Nmを発揮します。0-100km/h加速は3.6秒、最高速度はオプションのダイナミックプラスパッケージを装備した場合、305km/hに達します。5ドアおよび4ドア ステーションワゴンとしては世界最速クラスのモデルとなります。

#### ■ アウディ RS 7 スポーツバック/アウディ RS 6 アバントの○と×

- 高い実用性はそのままに、世界最速クラスの高性能を楽しむ。全幅が40mm拡大されたワイドボディにより、エクステリアの魅力もアップ
- ✕ ホイールは21インチが標準で、オプションで22インチを選択することも可能。見た目のインパクトは絶大だが、日常的な使用での快適性が気になる

### Lamborghini Sián FKP 37

ランボルギーニ シアン FKP 37



ランボルギーニ史上もっともパワフルなモデルとして発表された「シアン FKP 37」は、同社初の量産ハイブリッドモデルです。車名の「FKP 37」とは、今年8月に他界したフェルディナント・カール・ピエヒ氏の頭文字と1937年生まれであることを記したものの。今日の同社の繁栄の礎を築いた同氏の栄誉を称えるネーミングです。パワーユニットは、6.5L V12自然吸気エンジンに48Vの電気モーターを組み合わせたもの。これにより最高出力819psを発揮。0-100km/h加速は2.8秒、最高速度は350km/h以上と発表されました。

#### ■ ランボルギーニ シアン FKP 37の○と×

- 次世代を予見させるエクステリア、軽量かつ高出力なバッテリーであるスーパーキャパシタの採用など、先進的なデザインと装備に溢れた内容
- ✕ ランボルギーニが創業した1963年にちなんで63台が限定生産される予定だが、発表時点ですでに完売。同社の上得意客しか購入できない

### Land Rover DEFENDER

ランドローバー ディフェンダー



ドイツ資本のメーカーが多数を占める中、独自の存在感を見せたのがランドローバー。以前から開発を進めてきた新型ディフェンダーを発表しました。実に71年ぶりのフルモデルチェンジにより、世界最高レベルの走破性とオンロードでの快適性を両立しています。従来と同様に4ドアの「ディフェンダー 110」、2ドアの「ディフェンダー 90」が設定されるのに加え、2020年には機能的な商用モデルも用意。エンジンは、ガソリンが6気筒とマイルドハイブリッドの4気筒の2種類、ディーゼルはパワーが異なる2種類の4気筒エンジンを用意。2020年にはプラグインハイブリッドも追加される予定です。

#### ■ ランドローバー ディフェンダーの○と×

- ラグジュアリー志向に特化したメルセデス・ベンツ Gクラスとは異なり、2ドアや商用モデルを用意するなど、当初の志を受け継いだ独自性のある設計思想
- ✕ サイドマウントのキャリアは非常にユニークだが、斜め後方の視界の妨げになるのはもちろん、空気抵抗でも不利に働くため、あまり得策とはいえない

## MOTOR SPORTS

# ベントレーの魂を見せたSuzuka 10H お客様が訪れたラウンジも大盛況



8月23日～25日に三重県・鈴鹿サーキットで開催された国際GTチャレンジ、Suzuka 10Hで、ベントレー・チームMスポーツのコンチネンタルGT3は、2台とも完走（107号車が8位、108号車が28位）しました。100周年に華を添えるべく、特別なカラーリングで挑んだ2台は、残念ながら目標としていた表彰台には届きませんでしたが、決勝レースで107号車が一時3位争いを演じるなど、大いに見せ場を作ってくれました。また、順位こそ28位と振るわなかった108号車も、決勝レースのファステストラップ（2分02秒221）を叩き出し、コンチネンタルGT3のポテンシャルの高さを強烈にアピールしました。主にヨーロッパの舞台で戦うベントレー・チームMスポーツですが、日本のモータースポーツファンの皆様にも、ベントレーが100年

もの長きにわたって受け継いできたレーシングスピリットを見ていただくことができました。

そして、ベントレー モーターズ ジャパンは、24日と25日の2日間にわたって「ベントレー ラウンジ」を開設。100人以上のお客様にお越しいただき、ピットウォークやグリッドウォークのほか、8月にモータースポーツ責任者に就任したばかりのポール・ウィリアムズ氏とドライバーらの紹介、ラウンジでの各種イベントなどを行いました。10時間という長丁場のレースでしたが、解説を交えてランチやスイーツ、ディナーをお楽しみいただきながら、楽しくレースを観戦していただけたようです。お越しいただいたお客様には、ドライバーやチームスタッフと間近に触れ合ったことで、ベントレーのレーシングスピリットをより深く体感していただくことができました。





# 3代目コンチネンタルシリーズにV8モデルが追加 エクステリアとインテリアの特徴

ベントレー モーターズ ジャパンは9月17日、コンチネンタルGT V8とコンチネンタルGT V8 コンバーチブルを発表しました。パフォーマンスや極上のクラフトマンシップ、最先端技術のベンチマークであるW12モデルに対し、V8モデルは活動的で魅力的なドライブ体験を提供するラグジュアリーグランドツアラーとしての期待が高まっています。コンチネンタルシリーズのエントリーポイントとしての役割も担いますので、V8モデルについての理解を深め、お客様へのアプローチに役立ててください。

前号のパフォーマンスに続き、今回は、V8モデルのエクステリアとインテリアの特徴について解説します。

## EXTERIOR

コンチネンタルGT V8のエクステリアは、W12モデルと大きく異なるわけではありません。しかし、標準仕様とオプションの両方で細部が異なります。また、選択できるカラーの数に違いがあります。

	<div><div>ボディカラー</div><p>コンチネンタルGT V8のデザインを際立たせる7色の標準カラーと、56色のオプションカラーが設定されています。</p><table><tr><td>標準カラー</td><td>ベルーガ、オニキス、ムーンビーム、セントジェームズレッド、ダークサファイア、グレースーホワイト</td></tr></table></div> <div><div>ルーフのカラー (コンバーチブルのみ)</div><p>W12モデルと同様に、7色のルーフカラーが設定されています。</p><table><tr><td>標準カラー</td><td>ブラック、ブルー、グレー</td></tr><tr><td>有償オプションカラー</td><td>ダークブラウン、ダークグレーメタリック、クラレット、ツイード</td></tr></table></div>	標準カラー	ベルーガ、オニキス、ムーンビーム、セントジェームズレッド、ダークサファイア、グレースーホワイト	標準カラー	ブラック、ブルー、グレー	有償オプションカラー	ダークブラウン、ダークグレーメタリック、クラレット、ツイード
標準カラー	ベルーガ、オニキス、ムーンビーム、セントジェームズレッド、ダークサファイア、グレースーホワイト						
標準カラー	ブラック、ブルー、グレー						
有償オプションカラー	ダークブラウン、ダークグレーメタリック、クラレット、ツイード						
<div><div>フェンダーバッジ</div><p>フロントフェンダーには、クロームの「V8」バッジが装着され、W12モデルとV8モデルの違いを示します。</p></div>	<div><div>クアッドテールパイプ</div><p>W12モデルのテールパイプがオーバルだったのに対し、V8モデルはクアッド（デュアルツイン）テールパイプを採用して差別化を図っています。</p></div>	<div><div>ホイール</div><p>標準仕様のホイールデザインは、20インチ10スポークアロイホイール（ペイント仕上げ）です。また、W12モデルに標準装備されている21インチ5トリプルススポークアロイホイールを除く、他のすべてのホイールがV8モデルでも選択できます。</p></div>	<div><div>フェンダーベント</div><p>V8モデルのフェンダーベントには、W12モデルにある「12」のようなナンバリングはありません。無地の黒いインサートが採用されています。</p></div>				

## INTERIOR

コンチネンタルGT V8のインテリアも、W12モデルと基本的なデザインは変わりません。しかし、標準仕様とオプションの両方でV8モデルのみの特徴がいくつかあります。



カラスブリット

モノトーンの「カラスブリットD」が、V8モデルの標準仕様（クーペおよびコンバーチブル共通）となります。他の4種類のデュオトーンのカラスブリットは、カラスベックを選択することで提供可能となります。

標準カラー

モノトーン カラスブリット × 1種類（カラスブリットD）

レザーカラー

標準では5色のレザーカラーを選択できます。カラスベックを選択すると、さらに10色が選択可能となります。

標準カラー

クリケットボール、ニューマーケットタン、ポーボイズ、インペリアルブルー、ベルーガ

有償オプションカラー

ブリュネル、バートオーク、キャメル、カンブリアングリーン、ダムソン、ホットスパ、リネン、マグノリア、ポートランド、サドル

ウッドパネル

クラウンカット ウォルナットは、V8モデルとW12モデルの共通の標準仕様のウッドパネルです。他の7種類のウッドパネルは有償オプションで選択可能です。センターコンソールのオプションとして、コート・ド・ジュネーブも選択できます。ウッドパネルを横に貫くクロームのピンストライプは、20MYのすべてのコンチネンタルGTで有償オプションとして選択可。7種類のデュアルヴェニアも有償オプションです。

標準カラー

クラウンカット ウォルナット

有償オプション

パーウォルナット、ダークステインドパーウォルナット、ダークフィドルバック ユーカリプタス、ピアノブラック、コア、リキッドアンバー、タモアッシュ

カラスベック

有償パッケージオプションのカラスベックを選択すると、以下が利用可能になります。

・レザーカラーに10色追加

・4種類のデュオトーン カラスブリット

・コンバーチブルで残りのインナーカラー

ルーフのインナーカラー（コンバーチブルのみ）

カラスベックを選択すると、V8コンバーチブルのインナーカラーは、5色の標準カラーに加え、3色のオプションカラーから選択できるようになります。お客様がV8モデルをさらにパーソナライズできることをアピールしてください。

標準カラー

ブルー、ベルーガ、サドル、グレー、レッド

カラスベック

マグノリア、キャメル、ライトグレー



## 国際的デザインコンペで ベントレーが2つの賞を受賞

ベントレー モーターズのデザインチームが、自動車のデザインでは唯一のデザインコンペとして知られるオートモーティブ ブランド コンテストで最高の賞を2つ受賞しました。この賞は、傑出した製品とコミュニケーションデザインに対して特別に評価するもので、コンチネンタルGTコンバーチブルが「エクステリア・プレミアムブランド」部門で、そして筆記具のパートナーであるグラフ・フォン・ファーバーカステルとのコラボレーションで誕生したペンのデザインが「パーツ&アクセサリ」部門で、それぞれベスト・オブ・ベストとして表彰されました。

授賞式に出席したエクステリアデザイン責任者のジョン・ポール・グレゴリーは、「ベントレーのデザインチームを代表し、このような名誉ある賞を受賞できたことを光栄に思っています。コンチネンタルGTコンバーチブルは、私達が本当に誇りに思っているクルマであり、オートモーティブブランドカウンシルに認められたことは大変な名誉です」などとコメントしました。リード デザイナーのクリス・クックも、「この賞は、ベントレーとファーバーカステルの両チームによるコラボレーションとハードワークの証です。将来の製品に対しても、この成功と勢いを継続していくことを楽しみにしています」などと語っています。

審査員のユルゲン・レバンドフスキー氏は、コンチネンタルGTコンバー



チブルについて「今年100周年を迎えたベントレーが、コンチネンタルシリーズのバリエーションを発表するたびに、審査員は製品の優雅さと完璧にバランスのとれたプロポーションに感銘を受けています」などと高く評価。デザインカウンシルとしても、グラフ・フォン・ファーバーカステルとのコラボレーションについて「時代を超越したデザインで、精度に対する情熱、並外れたクラフトマンシップを組み合わせています。ベントレーのデザイン言語がコレクション全体に反映されていま

す」といった高い評価を与えました。

ジャーマン デザインカウンシルが主宰するオートモーティブ ブランド コンテストは、自動車ブランド唯一の国際デザインコンペで、この分野で最も重要なイベントとして知られています。コンペを通じ、ジャーマン デザインカウンシルは、優れた製品とコミュニケーションデザインを尊重し、自動車産業のブランドとデザインにおける重要な存在として注目を集めています。



## HERITAGE

## 1,321台の新旧ベントレーが集結 サロン プリヴェで世界記録を樹立



世界最高峰の自動車コンクールの1つとされる、英国で開催されたサロン プリヴェで、1,321台の新旧ベントレーが展示されました。現存する最古のベントレーであるEXP 2から、創業100周年の7月10日に発表されたばかりのコンセプトカー「EXP 100 GT」まで、あらゆる世代のベントレーが一堂に会し、史上最多のベントレーが集まったという世界記録を樹立しました。

ベントレー モーターズが所有する新旧の車両に加え、ベントレー ドライバーズ クラブのメンバーが中心となり、1920年代のクリックルウッド時代の車両、1930年代のダービーベントレー、生産拠点がクルーに移してから製造された往年の名車など、さまざまな世代のベントレーが集結。ベントレーの100年の歴史が凝縮したイベントとなりました。

ベントレー モーターズのエイドリアン・ホールマーク会長兼CEOは、「1,000台以上のベントレーが1カ所に集まったこの光景は、まさにExtraordinaryであり、ベントレーの歴史のなかでも比類なき瞬間となりました。100周年を記念するこの素晴らしいイベントの機会を提供してくれたサロン プリヴェの主催者、クルマを集めてくれたベントレー ドライバーズ クラブの皆さん、クルマをこの場に持ってきてくれたメンバーとすべてのお客様に感謝します」などとコメントしています。



## DIGITAL

## EXP 100 GTをショールームで見る ARアプリが利用可能に



100周年を記念し、2035年のラグジュアリーカーのあり方を示したコンセプトカー「EXP 100 GT」を、ショールームで擬似的に見ることができるARアプリが登場し、現在利用可能となっています。「Bentley EXP 100 GT AR」はiOS向けアプリとして、App Storeからダウンロードできます。このアプリを使用すると、ショールームを訪れたお客様に、エクステリアデザイン責任者のジョン・ポール・グレゴリーとインテリア・デザイン責任者のブレッド・ボイデルが、EXP 100 GTのデザインと特徴について説明します。



リテラーの皆様が準備すること

### ▶ Bentley EXP 100 GT ARアプリをダウンロードする

2017年以降のiPadで作動します。(互換性のあるデバイスについては、ガイドラインのリストで確認してください)

### ▶ ショールームのARマーカを印刷する

AR体験の詳細は、「EXP 100 GT Augmented Realityガイドライン」をご確認ください。このガイドラインは、リテラーマーケティングニュースの「ダウンロード」セクションの「Centenary」にある「EXP 100 GT」からダウンロードできます。詳細は後日、ベントレー モーターズ ジャパンよりご案内いたします。

<https://retailer.bentley.co.uk/content/dmn/en/downloads/centenary.html>



# フランクフルトモーターショー2019 (IAA2019) テクニカル・レポート

9月12日～22日に開催されたフランクフルトモーターショーにおいて最新技術を見て回りました。フォルクスワーゲンのID.3をはじめ、各社から数多くのEVが出品された今回のショーでは、クルマ以外にも電動化やコネクテッドなどの先進技術も数多く見ることができました。



## 1 ATはハイブリッドが前提に



ZFが発表した最新のハイブリッド用8速AT。同社のATは従来、内燃機関用が基本形で、それを改造してハイブリッド用としました。ところが、新製品はハイブリッド用が基本形になり、内燃機関用が派生形に。今後はハイブリッド用が主流になることが予想されます。

## 2 ディスプレイ表示を3Dに



コンチネンタルが次世代技術として提案したのが3Dで表示するディスプレイ。写真ではわかりにくいのですが、肉眼では、確かに奥行きがあるように見えます。乗員がディスプレイを見る時間が圧倒的に増える自動運転時代を見据えた技術です。量産は2022年を予定。

## 3 瞬間最大出力が2倍の電池



トヨタ紡織が持ち込んだのは開発されたばかりの新型のリチウムイオン電池でした。特徴は、瞬間的に出せる電力が普及品に対して2倍ほどあること。サイズに対する電力容量は変わらないので、容量が重要なEVよりも、高出力なハイブリッドカーに向いています。

## 4 エアバッグはどんどん大きくなる



メルセデスベンツの次世代安全装備を体現するコンセプトカー、ESF2019。そこには乗員が隠れるほど大きなエアバッグが装備されていました。他ブースでも多くのエアバッグの展示を見ることができます。後席用や天井など、エアバッグは大きくなる一方のようです。

## 5 ディスプレイは大きく自由自在に



コネクテッド化が進むクルマに必要なのは大きなディスプレイです。そうしたニーズに応えるのがコンチネンタルの次世代ディスプレイです。プラスチック製のレンズを利用することで、形は自由自在。タッチスクリーンにて操作すると、触覚で反応が返ってきます。

## 6 EV用のeアクスルは2速付きが最先端



EV車両向けのモーター型アクスル、いわゆるeアクスルは、今回のモーターショーではあちこちのブースで出品されていました。デンソーとアイシンの合併企業ブルーイーネックスは2速ギヤ付きの製品を出品。同じくZFも2速ギヤ付きの製品を発表しました。

## 7 タイヤのメンテナンスをフリーに



自動運転の無人タクシーが普及する将来を見据えて、コンチネンタルが提案するのは自動で空気を充填するタイヤ、コンチケアです。タイヤの回転力でポンプを動かし、青いタンクに空気を充填。必要なときにタイヤに空気を補充します。電力不要なのがポイントです。

## 8 スマートフォンをクルマのキーに



クルマのキーをスマートフォンで代用してしまうという技術がボッシュのパーフェクトキーレスです。クルマに乗り込むときも始動するのにスマートフォンをかざすだけでOK。2020年に市販される量産車に採用される予定で、広く普及するのにも時間の問題でしょう。

## 9 エアレスタイヤのタイヤ交換は？



ミシュランはエアレスタイヤを出品。金属のホイールに、カーボンファイバーで補強したゴム製のスポークを接着するという構造です。タイヤのトレッド面がすり減ったときはリトレッドが可能。商用タイヤのようにトレッド面を剥がして、新しい表面を貼り付けます。